

2012 年度日本建築家協会四国支部  
第 5 回地域会長会/第 2 回災害対策委員会/第 1 回建築巡礼四国 88 ヲ所特別委員会  
議事録

日 時：2012 年 9 月 25 日(火) 16:00～20:30

会 場：霧の森 交湯～館 2 階研修室

出席者：全体で 21 名 (※は委員長、下線は 88 委員と兼任)

支部長：細木茂

地域会長：眞田井良子(愛媛)、野村正人(香川)、伊月善彦(徳島)、徳弘忠純(高知)

事務局：和田耕一(愛媛)、鎌田吉敬(香川)、村上真(徳島)、東哲也(高知)

災害対策委員：笹木篤(愛媛)、公文敏則、富田妃登志(香川)

新居照和、※野々瀬徹(徳島)、大原泰輔、平山昌信(高知)

88 委員：秋山裕英、井尻誠司(香川)、※富田眞二、松田公彦(徳島)、

松澤敏明(高知)

欠席者：3 名

事務局長：松木貴史、88 顧問：上田堯世、88 委員：橋本健(高知)

■ 議 事：

1. 各地域会からの報告

愛媛：来年度事業計画作成ガイドラインについて質疑。

事業計画は今までのもので構わないが、事業内容が公益なのか非公益なのかの  
さび分けが重要。そのガイドラインについては来月、本部より届く予定。

香川：10 月 26～27 日にかけて行われる四国支部役員会について案内。

内容が充実しているので役員以外の参加も可能とし詳細については後日、案内。

徳島：本日の議題と重複するので、特に無し。

高知：9 月 21 日に JIA 会員のみで行われた夜間定例会の報告。会員 35 人中 17 人出席。

その他、地域会費納入状況の報告

2. 支部規約、地域会規約について

各地域会の中で検討し、次回、役員会にて協議を行う。

年内にはある程度の方向性を見いだす。

横浜の会で地域会サミットがあり、何らかの協議がなされるので地域会長の出席が必要。

3. 第 1 回四国支部大会実行委員会設置について

実行委員会を立ち上げ計画、次回役員会で正式に承認を得る事とする。

愛媛でのやり方が今後の雛形になりそうだが、実働するのは実施する県の委員会で他県  
の委員会は協力、サポートする体制としてはどうか。

大会準備委員会と実行委員会は別物であるが、組織をスライドさせても構わない。

年度内いっばいで翌年の事(会場・委員長)を決めておく必要がある。

講演会、四国建築賞との絡み、協力会員とのウエイトも大きい。

愛媛の実行委員長、賀村さんより顧問が二人いる高知で顧問会議を開き、テーマの論議をしたい、との事。

協力会員の会長を決めてはどうか？現段階では宮地電機の社長あたりは…。

正会員、協力会員の会場の使い方、分科会、別室の手配など予算が分からないと組立てにくい事から協力会費の半分程度の金額を目処に予算建てをしてみる。会場費は四国支部からの出資となるが飲食費については個人負担、講師をどんな人物にするか？など。

#### 4. 災害対策委員会四国セミナー開催について

- 1) 11月8日に予定されている被災時対策実施訓練計画案について徳島、野々瀬委員長より説明有り。この日は首都直下型地震が発生した想定のもと、本部災害対策委員会機能を近畿支部に移す訓練が行われる予定で、それに併せて四国支部でも何かできれば良いのではないか。
- 2) 11月10日に徳島大学で行われるシンポジウムについて案内有り。
- 3) 四国で考えられるのは南海トラフによる地震で徳島、高知は被災して動けなくなる。その際、愛媛、香川でどうバックアップをして支援いくか？
- 4) 携帯電話が使えなくなるであろう状況下、どのような情報ツールを使って各会員との連絡をとるのか調査する必要有り。
- 5) JIA 四国支部のホームページサーバーの被災時安全性はどうなっているのか、管理をしてもらっているカンマンさんに確認。
- 6) JIA の立ち位置、建築家として災害時にどの様に動くのか？行政と連携をして何ができるのか？各県の建築士会の状況を聞き JIA として災害対策の活動をするを行政に表明しておく必要有り。
- 7) 家族を守る・地域住民としての互惠助け合い、JIA 会員の助け合い、職能集団として社会に対して何ができるのか？それぞれ違うので分けて災害事対応活動考える必要有り。
- 8) 高知にある支部事務局が被災して機能しなくなるケースがある。その場合、仮支部事務局と支部災害対策本部をどこに置くのか決めておく必要があるが、震災初期段階では被災地に置くのは困難で現実的ではない。支部長と各地域会長の5人が連絡をとり合い、つながった方、おそらく被災地以外にいる支部長、副支部長兼務の地域会長と事務局が支部災害対策本部長・支部災害対策本部事務局として対応することになる。
- 9) 細かな被災時対応マニュアル役立たないので10年後でも使える、時代と共に変わらない、自分たちができる大枠を決めておけば良いのでは。
- 10) 四国支部、100人で見ると災害時メーリングリストを作っても良いのでは。そして例えば11月8日の訓練では恐らく被災をしていない愛媛、香川のどちらかの地域会会長が支部災害対策本部長としてメール発信をし、会員が対応する訓練をするだけでも良いのでは…。更に可能な訓練があれば加えて実施し、以後毎年1回程度実施訓練をする中で、対策マニュアルを見直し必要な活動を加えていくことでいいのでは・・・。
- 11) 次回委員会までに今回の皆さんの意見を整理した表を作成しメールにて配信、会員より意見徴収を行い、それにより検討を深め四国支部の災害対応マニュアルをつくり（被災地域会とそれ以外の地域会とではマニュアルが違うことになる）、実施訓練案を策定する。

次回委員会は10月26日の役員会に併設して開催する。それまでにシンポジウムに関する予算書を作成し、役員会で承認を得るようにする。

## 5. 環境連続セミナーについて

徳島の新居氏より JIA 四国支部環境連続セミナーについて説明。

### 1) 省エネ化施策について

年度が定められ法規制が始まっており、全国一律の法規制としないためにも、地域で活動する建築家が生き残るためにも、環境についての勉強を行う。

大手住宅メーカーは、技術根拠を持ちながら法規制に向け準備をしており、ハウスメーカーの建物が主流になる恐れが有る。

地域住宅性能のマニュアルもあるが、ワンパターンで、マニュアル通りの仕様が法的に求められる事になれば、多様な環境を作る職能を持つ建築家の意味も無くなり、地域が培って来た建築の存続の危機にも至る。

全ての建物が環境建築になってくるので、基礎的な事をセミナーで学ぶのは大事となる。

### 2) 環境セミナー実行委員会について

10月10日(水)までに各地域会から2名選出頂き、「環境セミナー実行委員会」を立ち上げる。世話人になられる委員の方と積極的なコミュニケーションをとりたい為、早めに委員の住所/連絡先/メールアドレスを報告頂きたい。

(時代的にも、法的規制においても、環境建築が建築の前提になっていく中で、多様な表現に挑戦されようとしている方、シックハウス対策で全国画一的に24時間換気扇を付けることに強い矛盾点を感じている方等は、ふるってお世話役の委員になって頂くことを、希望します。環境連続セミナーが効力のある勉強会になるよう、委員間同士で事前に勉強していくことを考えています。)

### 3) セミナー運営について

成功事例として「伝統工法の連続セミナー」をイメージ。

伝統工法のセミナーでは各県2回ずつ講演を行い、参加料を徴収したがテキストのコピーが可能で、この本が売れたために収入が増えた。

12月からかかる規制に対して、例えば高知の土佐派がどう向き合っていくのか、また中国支部との連携も視野に入れ、重い問題を楽しくできるのか、法をひっくり返すのではなく規制の中で何ができるのか、セミナー講師候補として名前が挙がっている法を、作る側の人達とコミュニケーションのとり流れを変える事はできないのか、運用方法を事前に探れないか、など課題有り。

## 6. 88委員会

富田委員長より説明、本日、方向性の確定を行うべく各県より意見徴収。

**愛媛:** 前回88の続版と考え、明治以降～2011年までで前回見落としていた建物、価値観の変化により新たに付加していく建物を選定していく。

**高知:** 愛媛の考え方と同じ。4月10日の88委員会で決まった選定方法で良いのでは。四国で自分達だけの建物選定では弱い。高知は選考委員会で選定を行っていたが仕切り直し、グループメールで推薦依頼し28作品を選定。近代建築はあま

り無く、前回 88 カ所の別枠建物からは龍馬記念館が選定されている。

香川：4月の話で止まっている。愛媛、高知と同じく四国の建築家に絞る必要は無い。

良い建築が多いので選定が難しく地元建築家を選ぶ際には調整が難しい場合が出てくる。

各地域会から出された上記の意見を踏まえ、委員長提案の「四国の建築家の四国の建築 88 作品」ではなく、初版 88 を踏襲した内容とすることに決定した。また選考範囲は明治以降 2011 年末日までに完成した全てのものが対象になったが、前回選ばれた 88 作品は除くことになった。

最終的な作品選定については  $88 \div 4$  県 = 22 作品ではなく、まず各県地元の土俵で納得できる 30 前後(最低でも 25 以上)の作品を上げてもらい、四国で話し合い 88 カ所を選ぶこととする。次回 11 月の委員会では作品提示を行うが、地域格差を選定にどう反映させるかも課題。今後 20 年毎に 88 を選定し四国の建築文化を伝え残していく。

88 第二版の最終イメージはまず電子的な仕様で完結させ、予算ができた段階で出版物としてはどうか。現段階では 30~40 万円の予算は確保されているが、出版直前の状態まで今年度中に持っていくのは時間的、予算的に難しい。作品選定については今年中には行い、3 月までには 88 カ所を確定する。

## 7. その他

次回、地域会長会は 11 月 13 日(火)16 時~とし 88 委員会を併設。

以上 記録：東 哲也